

2021年8月13日
日本通運株式会社

2021年12月期第1四半期 決算説明（電話会議）主な質疑応答（要旨）

8月13日(金)の決算説明会は電話会議形式にて実施しました。寄せられた質問と当社説明は下記の通りです。

（通期業績予想について）

Q1. 通期業績予想の修正について、個別の2021年4月～9月の営業利益を下方修正し、10月～12月は前回計画に対して据え置いたが、この要因として2021年7月～9月と10月～12月の費用の見方に違いがあるか教えていただきたい。

A1. 10月～12月は本社移転などによるコスト増が見込まれるが、今回の個別の下方修正は、第1四半期における運送費、燃油費等の仕入単価の上昇によるもの。

業績予想全体としては、第1四半期において、海外および国際物流は堅調に推移した一方、国内物流の戻りは弱かった。国内物流は足元の新型コロナウイルス感染の再拡大等により経済環境・物量動向の先行きは不透明であり、この点から業績動向について慎重に見る必要があると考えている。上半期営業利益予想は360億円を据え置き、第2四半期の営業利益予想は159億円となる。第1四半期のペースから見れば、第2四半期のハードルは下がっているが、国内物流の動向推移や、業績を牽引している海外および国際物流の状況についても、現段階では、第3四半期は不確定な要素が多いと考えている。

Q2. 通期（12か月換算）の業績予想について、営業利益を843億円に上方修正している理由を教えていただきたい。

A2. 前年度決算説明において、12か月換算のプロフォーマについては、1～3月の営業利益を試算値として270億円と説明した。当1Qの決算処理にて、海外の1～3月の当期利益等を利益剰余金として組み入れるにあたり、数値確定を行った結果、営業利益の確定値は283億円となり、同金額に修正を行った。

Q3. 通期業績予想について、売上高を上方修正し、営業利益を据え置いたのは、売上上昇に利益がついてきていないからか、それとも下期の動向を慎重に見ているためか、ご説明いただきたい。加えて、航空輸出事業について、2021年3月期第4四半期に対して今期第1四半期が売上高は上昇しているが、粗利益は落ちていると見られる。その背景につ

いて教えていただきたい。

A 3. 業績予想修正の理由としては、第 1 四半期での利用運送費、燃油費等の仕入単価の上昇が主な理由。航空輸出・海上輸送事業共に売上高・利用費共に上昇している。航空輸出・海上輸送ともに増加率は利用費の方が高くなっているが、重量等の単位あたりの差益額は維持できており、売上高を上方修正、営業利益は据え置きとした。

Q 4. 業績予想について、第 1 四半期より第 2 四半期の業績が落ちると見通した、その考え方を教えて欲しい。

A 4. 1 Q の営業利益は 201 億円となったが、この中には、緊急貨物輸送や航空チャーター輸送等の感染症発生による特殊要因が含まれており、こうした効果は徐々に縮小していくと見ている。また国内の感染症発生状況による経済への影響等、今後の不透明感が高く、今暫く状況推移を見る必要があり、単体およびロジスティクス・日本を下方修正し、これをロジスティクス・海外が吸収することを見込み、営業利益予想を据え置きとした。こうした状況下、上半期の営業利益予想についても 360 億円に据え置き、第 1 四半期 201 億円に対して、第 2 四半期は、保守的な数値となっている。経営計画中間目標の年間 830 億円達成を意識し、まずはその目標を達成したいと考えている。

Q 5. 業績予想について、海外セグメントの営業利益予想を上方に、日本セグメントを下方にそれぞれ同額で修正しているが、日本セグメントの下方修正について経済動向の不透明感を強めに織り込んだことによるのか教えていただきたい。

A 5. 第 1 四半期での利用運送費および、燃油費等の仕入単価の上昇を主な要因として、個別およびロジスティクス・日本の営業利益を下方修正した。緊急貨物輸送や航空チャーター輸送等の感染症発生による特殊要因が含まれており、こうした効果は徐々に縮小していくとの見方に変更はない。また国内の感染症発生状況による経済への影響等、今後の不透明感が高く、今暫く状況推移を見る必要があり、この影響を一定程度見込んでいる。

Q 6. 全体として、本日発表の業績予想は保守的に見ているか、確度の高い予想を出しているという認識のどちらになるか？

A 6. 国内の感染症発生状況による経済への影響等、不透明感が高く、今後の業績動向については慎重に見る必要があると考えている。こうした状況下、第 1 四半期の営業利益は 201 億円となったが、今暫く状況推移を見る必要があるものと考え、今回の営業利益予想は据え置きとした。

(航空輸出事業・日本セグメントについて)

Q1.航空事業の利用費率について、単体では前年度は5割程度を占めるが、利益のマネジメントはできているか。また、航空利用費率の見通しと、半導体不足の影響について確認したい。

A1. 第1四半期の航空輸出事業(単体)は、対前年278億円の航空輸出収入の増加に対して、航空利用費は250億円増加、差引きは、+28億円となるが、重量単位当たりの差益の維持はできている。今後の見通しについては、堅調な需要とコンテナ不足による海運からの切替え需要も見込まれることから、少なくとも年内は、状況は大きく変わらないと見ている。

半導体不足の影響は、5月に自動車産業を中心に影響があったが、需要を見ながらスペースコントロールを行っている。また、8月後半から自動車産業へ与える影響は縮小に向かうと見ている。

Q2.ロジスティクス・日本セグメントについて、2021年1月～3月に対して4月～6月の営業利益が減少したが、これは5月以降の半導体不足の影響が利益減少の主な要因か。

A2.日本1～3月と比較して、4～6月の営業利益が減少するのは、半導体不足による航空輸出扱いでのマイナス影響の他、緊急貨物輸送扱い等の減少や、9ヵ月決算に伴う固定資産税等の12ヵ月分計上によるコスト増等、複数の要因がある。

以 上